

国土交通省関東地方整備局は、「見積もり提出方式」を軌道に乗せるため、建設関係団体に向けて説明会を実施するなど、周知に取り組んでいる。関東地整の入札に占める不調不落の割合は、10月末時点で3割に上

関東地整

「見積もり提出方式」の試行案件でも参加申請がない案件が続出。事業の遅れが懸念されている。関東地整は新本式を活用して不人気工事の契約にこぎつけたと考えて、本年度中に35件の試行を予定している。

見積もり提出方式



業界への周知で説明会

応札者の増加に期待大

められれば出向いて話す」としており、今後ますます機会を通じて周知の徹底を図る。12月に入ってから業

界のすそ野が広く、勉強会を開くなど業者の関心も高い「維持修繕」「舗装」など、都心の道路関係の工事では発注が始まった。

担当の東京国道事務所は、積算価格や現場状況のう

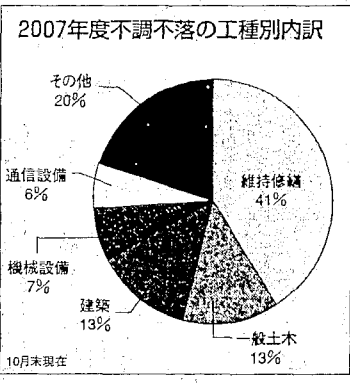
ち、30%に当たる4

維持修繕が165件で最多

関東地整では、近年、入札の不成立が頻発しており、本年度は発注案件1385件(10月末時点)のうち、30%に当たる4

14件が不調不落となっている。2006年度の20%(全2469件のうち496件)に比べてもペースは加速し、関東地

整では危機感を強めている。本年度の不調不落の工種別内訳を見ると、維持修繕が41%の165件で



トップ。次いで▽一般土木13%(55件)▽建築13%(53件)▽機械設備7%(31件)▽通信設備6%(26件)と続く。また、これら不調不落は比較的小規模な工事や、地元業者を対象とした改良・復旧工事で発生している。

「見積もり提出方式」できよう公告
 国土交通省東京国道事務所は、近年、入札の不調不落が続いていた橋脚耐震補強工事を「見積もり提出方式」で発注する。きょう14日から「国道6号四ツ木橋」「国道6号言問橋」「国道14号新小松川大橋」「国道14号両国橋」「国道17号志村橋」の5件を公告。また、同日に「国道14号新小松川・小松川小橋」についても関東地方整備局が「見積もり提出方式」で発注する(公告の概要は入札欄に掲載)。

東京国道の橋脚耐震補強